

統一地方選挙前半戦の結果と後半戦のたたかいについて

2023年4月10日 日本共産党北海道委員会・常任委員会

(1) 4月9日投開票となった統一地方選挙・前半戦で日本共産党北海道委員会は、北海道知事選挙で池田まき氏を支持し、また札幌市長選では「いのち☆くらしが一番の会」のきばた秀男氏を推薦してたたかいました。また池田道政、きばた札幌市政を実現し、それを支える強力な日本共産党道議団、札幌市議団確立をめざして全力を尽くしました。

池田候補は48万票近くの得票を獲得、きばた候補は12万4千票を獲得し、それぞれ健闘しましたが、及びませんでした。

道議選でわが党は8選挙区に候補者を擁立、大激戦のなか小樽市、旭川市の現職議席を守り抜きましたが、札幌東区は残念ながら6票差で惜敗しました。また札幌市議選は5人区で競り勝った清田区吉岡候補の奮闘などもありましたが、全体として7議席に後退しました。ご支援をいただいたすべてのみなさんに心からのお礼を申し上げますと同時に、期待にこたえられなかったことについて道常任委員会の責任を痛感しています。

(2) この選挙でわが党は暮らしと平和を守り抜く太い論戦を軸に、「医療・鉄道、農業壊しの自民党道政からの防波堤の議席」「五輪よりもいのち・暮らし優先のかけがえない議席」など、党議員団の値打ちを押し出すとともに、自公政権と維新の会の大軍拡・「戦争国家づくり」を正面から批判し、「9条をいかし平和外交を」「日中両国関係の前向きな打開のために」の提言を語りました。訴えが届いたところでは共感と期待の声が広がりましたが、党の自力の後退もあり多くの有権者に声を届け切れずに投票日を迎えることとなりました。

(3) 前半戦では少なくない選挙区で僅差で当落が決まりました。わが党の自力と活力の低下が、道民との日常的な結びつきと交流を弱めている問題を重視しなければなりません。また統一協会・国際勝共連合の日本共産党を貶める事実無根の攻撃や、党を「除名」された党员の問題を利用した“共産党バッシング”などに対して、道理をもって、それにこたえ、そのことを通じて日本共産党のありのままの姿を理解していただく絶好の機会にしていく論戦で、課題を残しました。

(4) 量質ともに強大な党づくりに力をそそぎ、大軍拡NO! 「戦争国家づくり」を許さないたたかいをはじめ、かかげた政策の実現をめざす活動、草の根から道民と要求で結びつき、後半戦と次の国政選挙での前進に力を尽くす構えです。後半戦では全道77市町村で111人の候補者を擁立してたたかいます。候補者全員の当選めざして全力を尽くします。政治を変えたいと願うみなさん、「なにより平和、暮らしが第一」と願うみなさんのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

以上